

2023年（令和五年） 10月27日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
F A X（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

## ■ 概況

10/12～10/18のNYMEX・WTI先物市場は82.91～88.32ドルの範囲で推移した。

10月19日は、パレスチナ情勢の深刻化により、中東の地政学リスクが高まる中、続伸した。ドル安の進行も、原油先物の割安感から値上がり要因となった。ただ、前日の米国の対ベネズエラ経済制裁緩和報道は、需給緩和観測を招き、上値を抑えた。11月物終値は前日比1.05ドル高の89.37ドル。

週末20日は、この日11月物の納会を迎え、午前中、持ち高調整の売り買いが交錯し、一時90ドル台を付けたが、午後は、利益確定売りが優勢となり、4日ぶりに反落した。11月物終値は同0.62ドル安の88.75ドル。

週明け23日は、イスラエルによるガザ地区への地上侵攻が先送りされたとの観測から、地政学的緊張が緩み、大きく続落した。先週の対ベネズエラ経済制裁緩和の観測報道も値下がり要因。この日から取引の中心限月に繰り上がった12月物終値は同2.59ドル安の85.49ドル。

24日は、米国の景況指数が市場予想を上回る堅調であった一方、欧州圏の景況指数が予想を下回る軟調であったことから、ドル高・ユーロ安が進行し、原油先物に割高感が出るとともに、米国の利上げ観測が強まり、米国の景気後退懸念から、3日続落した。12月物終値は、同1.75ドル安の83.74ドル。

25日は、イスラエルによるガザ地区への地上侵攻が近いとして緊張が高まり、4営業日ぶりに反発した。ただ、この日発表の米国原油在庫が市場予想を上回る積み増しで、需給緩和感から、上値は重かった。12月物終値は前日比1.65ドル高の85.39ドル。

中東産ドバイ原油/東京市場（12月渡し）は、10月12日～18日の間、88.00～92.70ドルの範囲で推移。10月19日90.40ドル、20日90.50ドル、23日90.90ドル、24日90.30ドル、25日90.30ドル。

対ドル為替レート（TTM）は、10月12日～18日の間、149.26～149.94円の範囲で推移。10月19日149.88円、20日149.96円、23日149.89円、24日149.76円、25日149.99円。

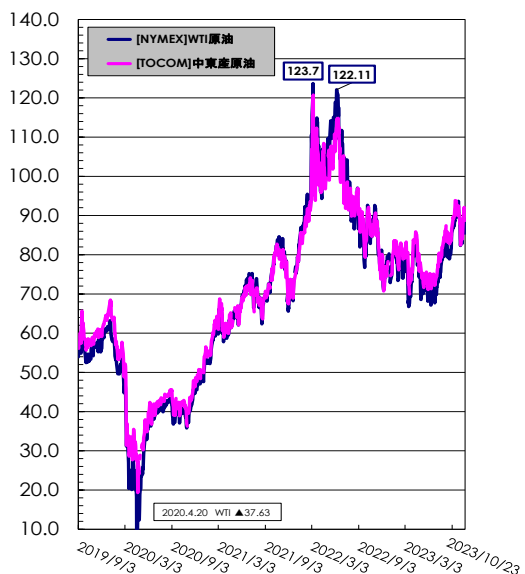
財務省が10月19日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、9月下旬の原油輸入平均CIF価格は81,431円で前旬比1,423円高、ドル建て88.01ドルで前旬比1.21ドル高、為替レートは1ドル/147.10円。また、9月月間の原油輸入平均CIF価格は79,649円で前月比6,182円高、ドル建て86.44ドルで前月比4.40ドル高、為替レートは1ドル/146.48円。

そのような中で、10月23日時点の価格は、ガソリンが前週比1.3円の値下がり、軽油も同1.3円の値下がり、灯油は同20円の値下がり（18リットルベース）。ガソリン・灯油・軽油ともに7週連続の値下がり、ガソリンの全国平均価格は173.4円となった。

10月5日から燃料油価格激変緩和補助金は一段と拡充され、10月26日～11月1日の補助金の支給額は35.7円（補助金がない場合の次週予想価格210.5円、従来の基準価格185円から185円までの17円部分は60%支給で10.2円、185円を超える部分は100%支給で25.5円）となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/15～10/21	2,602 ▼ -70	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	70.5 ▼ -1.6	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	10/21	10,709 ▲ 396	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	10/23	88.73 ▼ -0.55	▲ 4.1
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	10/23	85.49 ▼ -1.17	▲ 0.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月下旬	88.01 ▲ 1.21	▼ -22.85
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	81,431 ▲ 1,423	▼ -16,140
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	147.10 ▼ -0.56	▼ -7.17
	外国為替TTSLレート (¥/\$)	10/23	150.89 ▼ -0.29	▼ -0.86

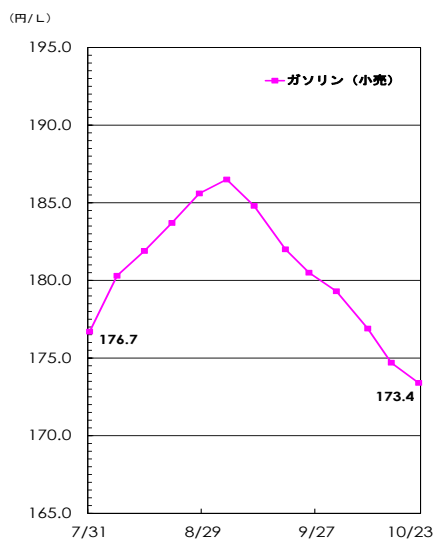
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/15 ~ 10/21	815 ▼ -39	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	748 ▲ 122	➡ -	
	輸出	"	96 ▼ -26	▼ -	
	在庫	10/21	1,699 ▼ -29	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/17 ~ 10/23	72.7 ▲ 0.9	▼ -1.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/17 ~ 10/23	75.0 ▼ -1.8	▼ -0.7
		(TOCOM/中部)	10/23	75.0 ▼ -3.5	▲ 0.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/23	173.4 ▼ -1.3	▲ 4.2	

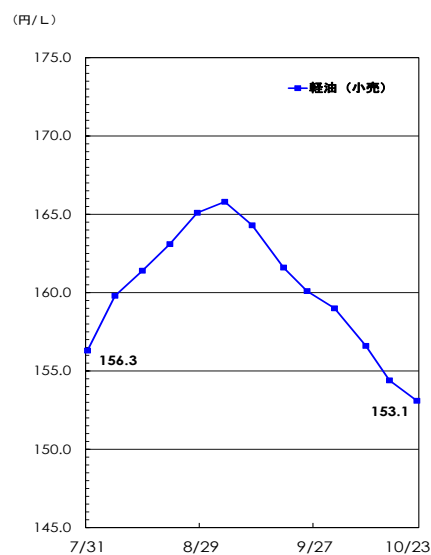
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

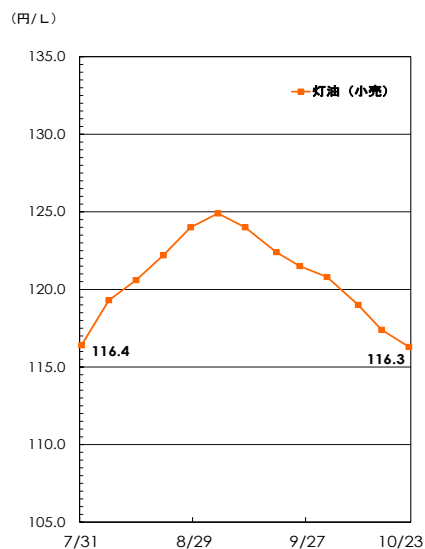
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/15 ~ 10/21	653 ▼ -40	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	596 ▲ 66	▲ -	
	輸出	"	179 ▲ 82	▲ -	
	在庫	10/21	1,262 ▼ -122	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/17 ~ 10/23	72.4 ▲ 0.8	▼ -4.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/17 ~ 10/23	75.4 ▼ -1.9	▼ -2.3
		(TOCOM/中部)	10/23	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/23	153.1 ▼ -1.3	▲ 3.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/15 ~ 10/21	177 ▼ -27	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	153 ▲ 116	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -99	▼ -	
	在庫	10/21	2,973 ▲ 24	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/17 ~ 10/23	72.7 ▲ 0.9	▼ -4.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/17 ~ 10/23	73.0 ▼ -2.8	▼ -8.2
		(TOCOM/中部)	10/23	75.0 ▼ -3.0	▼ -2.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/23	116.3 ▼ -1.1	▲ 4.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(10月19日~25日)のWTI石油先物市場は、ハマスとイスラエルの軍事衝突が激化する中、19日に続伸の89.37ドルで始まったものの、衝突長期化による緊張緩和・利益確定売りもあって、週末20日から3営業日続落したが、イスラエルのガザ地上侵攻が近いとして、25日は反発し、85.39ドルで終わるといふ、不安定な動きであった。

10月25日発表の20日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計によれば、原油在庫は前週比140万バレル増と、市場予想(同20万バレル増)を上回る積み増しだった。ガソリン在庫も予想に反する20万バレル増だった。

EIAによると、10月23日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.3セント安の1ガロン3.533ドル(140.7円/ℓ)と5週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比10.1セント高と3週ぶりの値上がりの1ガロン4.545ドル(180.9円/ℓ)。

ベーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、10月20日時点で、前週比1基増の502基と2週連続の増加。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年10月15日~10月21日に休止したトッパー能力は57.3万バレル/日で、前週に対して21.2万バレル/日増加した(全処理能力は331.5万バレル/日)。

原油処理量は260.2万klと、前週に比べ7.0万kl減少。前年に対しては25.0万klの減少。トッパー稼働率は70.5%と前週に対して1.6ポイントの減少、前年に対しては6.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてC重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/4.6%減、ジェット/32.2%減、灯油/13.2%減、軽油/5.7%減、A重油/5.5%減、C重油/2.2%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.7万kl減)。軽油の輸出は17.9万kl(前週比8.2万kl増)。

出荷(輸入分を除く)はジェットが減少となり、その他の油種で増加した。前年比では灯油、軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は74.8万kl(対前週19.4%増)と2週振りに増加した。ジェット-1.2万kl(対前週824.5%減)、灯油15.3万kl(対前週316.9%増)、軽油59.6万kl(対前週12.4%

増)、A重油17.3万kl(対前週9.5%増)、C重油15.4万kl(対前週8.8%増)。

(単位:千kl)

	今週 (10/15 ~ 10/21)	前週 (10/8 ~ 10/14)	前週比
ガソリン	748	626	▲ 122 (19%)
ジェット燃料	-12	2	▼ -14 (-700%)
灯油	153	37	▲ 116 (314%)
軽油	596	530	▲ 66 (12%)
A重油	173	158	▲ 15 (9%)
C重油	154	142	▲ 12 (8%)
合計	1,812	1,495	▲ 317 (21%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月21日時点の在庫は灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては軽油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは169.9万kl、前週差2.9万kl減。前年に対しては9.4万kl多い。

灯油は297.3万kl、前週差2.4万kl増。前年に対しては61.9万kl多い。

軽油は126.2万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては3.1万kl少ない。

A重油は77.9万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては2.8万kl多い。

C重油は200.5万kl、前週差4.1万kl増。前年に対しては13.0万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (10/21)	前週 (10/14)	前週比
ガソリン	1,699	1,728	▼ -29 (-2%)
ジェット燃料	863	921	▼ -58 (-6%)
灯油	2,973	2,949	▲ 24 (1%)
軽油	1,262	1,384	▼ -122 (-9%)
A重油	779	781	▼ -2 (-0%)
C重油	2,005	1,964	▲ 41 (2%)
合計	9,581	9,727	▼ -146 (-1.5%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月17日～23日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートはわずかに円安で、元売会社の卸価格建値は3.5円の値上がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額34.8円を加え、今週の補助金35.7円を差し引いた、10/26～11/1の実質卸価格は2.6円の値上げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月17日～23日の製品スポット市況は、10月10日～16日平均と比べ、三油種の先物取引と軽油の海上取引の値下がりを除いて、その他の油種・取引で値上がりした。

直近週(10/17～10/23)の陸上スポット価格平均値は、前週(10/10～10/16)比で、ガソリンは0.9円の値上がり、灯油も0.9円の値下がり、軽油も0.8円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(10/17～10/23)に、前週(10/10～10/16)比で、ガソリンは0.5円の値上がり、灯油も0.5円の値上がり、軽油は0.3円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.8円の値下がり、灯油も2.8円の値下がり、軽油は1.9円の値下がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (10/17～10/23)	前週 (10/10～10/16)	前週比
スポット価格	レギュラー	72.7	71.8	▲ 0.9
	灯油	72.7	71.8	▲ 0.9
	軽油	72.4	71.6	▲ 0.8

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (10/17～10/23)	前週 (10/10～10/16)	前週比
先物価格	レギュラー	75.0	76.8	▼ -1.8
	灯油	73.0	75.8	▼ -2.8
	軽油	75.4	77.3	▼ -1.9

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/17～10/23実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.9	▼ -1.8	▼ -0.4
灯油	▲ 0.9	▼ -2.8	▼ -0.9
軽油	▲ 0.8	▼ -1.9	▼ -0.6
A重油	▲ 0.6		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

10月23日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.3円安の173.4円、軽油も1.3円安の153.1円、灯油も18%ベースで20円安の2,094円(1%ベースでは1.1円安の116.3円)。ガソリン・軽油・灯油ともに7週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが大分県・佐賀県、横ばいは北海道、値下がりが44都府県だった。全国最安値は岩手県の166.4円、その次は新潟県の166.8円であった。他方、最高値は長崎県の185.0円だった。最も値下がりがしたのは神奈川県(同3.4円安)、最も値上がりしたのは大分県(同0.2円高)だった。

次回調査時(10/30)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

以上

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (10/23)	前週 (10/16)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	173.4	174.7	▼ -1.3	23/9/4 186.5
	灯油	116.3	117.4	▼ -1.1	08/8/11 132.1
	軽油	153.1	154.4	▼ -1.3	08/8/4 167.4

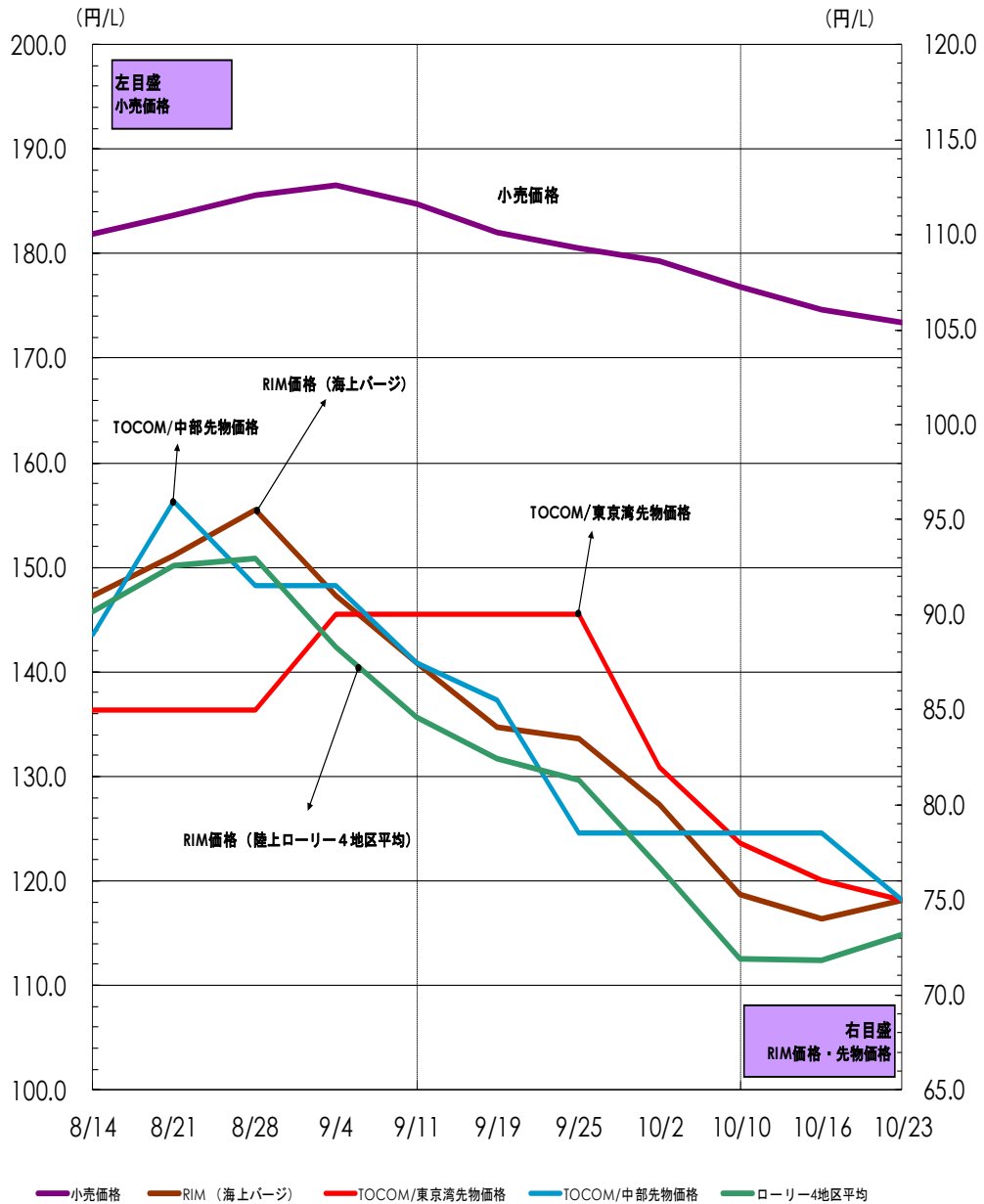
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

[2023/8/14 ~ 2023/10/23]



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回 (2023第29号) の公表は、11/3 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」 (旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁-HPIに掲載)。